

名古屋大学エコトピア科学研究所共同研究シンポジウム

エコトピア指標と well-being（幸福・健康）

関連指標とのクロスオーバー

日時：2011年1月9日（日）

場所：名古屋大学エコトピア科学研究所

内容

健康社会研究センターと、名古屋大学エコトピア科学研究所は、エコトピア指標における QoSL 評価指標の開発に向けた共同研究のため、2011年1月9日に名古屋大学エコトピア科学研究所にてシンポジウムを開催した。

健康社会研究センターが事務局を担っている「介護保険の総合的政策評価ベンチマーク・システムの開発」研究班（http://square.umin.ac.jp/kaigo_bm/）におけるベンチマーク指標開発論議を踏まえて二つの報告がなされた。

近藤（日本福祉大学）からは、高齢者の QOL・well-being に関連する指標を評価する基準として、信頼性や妥当性、指標の元となるデータの入手容易性など7つあることが紹介された。また、尾島（浜松医科大学）からは、今までに開発された指標の中で、支持され継続利用されている指標の特徴として、①使用が義務的であるもの、②利用による具体的なメリットがあるもの、③元になるデータの収集が容易であるもの、の3つの特徴があることが報告された。

エコトピア科学研究所からは、エコトピア指標の分子（QoSL）要素は「社会・経済・個人」であり、その評価項目の中には「健康」や「貧困」、「経済的格差」などの項目が含まれていること、また「集団」に対する評価も求められていること、指標が持つ要素や具体的な指標の項目作成に向けて QoSL への提案がなされていること、健康被害リスクの定量評価方法や、分子（QoSL）の数値化などについて紹介された。その後、指標開発に向けた課題などについて議論した。

<報告内容>（報告順）

近藤克則（日本福祉大学社会学部・教授）

Well-being（幸福・健康）指標によるベンチマークの考え方

田原 譲（名古屋大学エコトピア科学研究所・教授）

エコトピア科学とエコトピア指標の考え方

尾島俊之（浜松医科大学健康社会医学講座・教授）

保険医療福祉分野における指標の事例紹介

伊東英幸（名古屋大学エコトピア科学研究所・特任助教）

エコトピア指標の事例紹介

<名古屋大学エコトピア科学研究所ホームページ： <http://www.esi.nagoya-u.ac.jp/>>